

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第48号
2020(令和2)年12月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

心が震えるような鮮やかな色 — 紅花染めと木綿の限界 —

心が震えるような、鮮やかなピンク色に染まりました。紅花染めです。染色材としての紅花利用の歴史は古く、日本にも奈良時代以前にはすでに伝わっていたようです。万葉集には「くれない・紅」「すえつむはな・末摘花」として登場します。古の人々がこの色に憧れた理由がわかるような気がします。

今年は紅花染めに取り組むべく、最上紅花で有名な紅花の里、山形県河北町から種を取り寄せ、栽培するところから始めました。今年一年を振り返り、以下にその経過と染色法について紹介します。

種は、紅花の栽培と染色に取り組む「河北べに花会」(山形県西村山郡河北町谷地戊)から購入。栽培地は天理市竹之内町と田井庄町の畑。種は中性洗剤で洗ってから一晩水に浸し、4月17日に播種。5月中旬に間引き。間引き菜は健康野菜として食用可。6月17日に初開花を確認。6月24日～7月3日にかけて集中的に花を摘む。根気と手間の要る地道な作業ながらご近所のご婦人のご協力を得て無事収穫。総収量は1,565g。その後は梅雨時の湿気と真夏の猛暑を避け、摘み採った花びらは一旦冷凍保存。

11月26日解凍。翌27日紅餅づくり。搾り液でまず染色。紅餅は日陰で乾燥させる。12月10日、乾燥した紅餅を木綿袋に入れ、口を固く縛って一昼夜水に漬ける。漬け込んだ袋を絞ると黄汁が出る。これが黄汁染めの染料となる。再度水を取り替え、5時間くらい漬け込み、もみ出しては絞り出す。これを1日3回ほど繰り返す、黄色が出なくなるまで1週間以上つづける。後半は1日2回程度の水替えでも可か。

12月21日、いよいよ紅色に染める工程に入る。紅餅の重さに対して30倍の水を用意し、8%の炭酸カリウムを溶かし(紅餅100g:水3000cc:炭酸カリウム8g)、先程の袋を漬け込む。10分毎にもみだし、30分後に絞る。この液を別の容器に取り置き、また新たに同量の炭酸カリウム水溶液をつくり、同じ作業を行う。これを計3回繰り返す、3回つくった液を一緒にする。これが紅染めをする紅汁染めの染料となる。

木綿布であっても、紅汁染めの場合は下地処理は不要。紅汁を35℃程度に温め、染める布を水に浸けて軽く絞ってから染め液に入れる。5分後に取り出し、クエン酸を加えた溶液を少量ずつ加え、あらためて浸ける。クエン酸溶液の量は湯飲み茶碗1杯程度。クエン酸の量は、紅餅100gに対して10g程度。湯飲み茶碗1杯の溶液を、盃2杯分ずつ分けて紅汁に加え、その都度、布を浸けては取り出し、湯飲み茶碗の溶液がなくなるまで繰り返す。最後に布が浸る程度のクエン酸溶液を新たにつくり、10分ほど漬け込んで色止めする。

なお、紅花染めの方法は一樣ではなく、上記の方法は河北町役場から頂いたプリント「だれにでもできる紅花染」を参考に、河北べに花会の会員の方に直接お電話してアドバイスいただいた内容を反映させています。

ちなみに、炭酸カリウムはあくまで藁灰の代用品。クエン酸は烏梅の代用品。黄汁染めには下地処理が必要で、染液は一旦沸騰させ、別容器に移して染める。後媒染にはミョウバンを用いる由。「なぜ紅色にならなかったのでしょうか？」との問いには、「シルクは紅に染まるものの、木綿はピンクが限界」との返答。納得です！



紅花で染めた木綿の手紡ぎ糸とハンカチ

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和2年11月24日～令和2年12月23日)

埼玉県1、神奈川県1、愛知県1、京都府1、大阪府2、兵庫県1、奈良県1、広島県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和2年11月24日～令和2年12月23日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数9件19名



《綿の栽培記録 2020》－ 令和2年度版 その11－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。△:×=曇り一時雨。11月26日○|△、27日○|△、28日△|○、29日○|△、30日△|○、12月1日○|△、2日○、3日△、4日○、5日○、6日○、7日○/△、8日○|△、9日○|△、10日○|△、11日△:×、12日△|○、13日△|○、14日△、15日○|△、16日○|△、17日△|○、18日△|○、19日△|○、20日○|△、21日△|○、22日○|△、23日○|△、24日△/×、25日△/○。

いよいよ綿畑の綿木をすべて片付ける時期になりました。12月3日に7号畑の綿木を、6日に5号畑、20日に6号畑、26日に8号畑の綿木を切り倒し、あとは1号畑の綿木を残すばかりです。

写真左：乾燥させた紅餅の計量。中：紅花染めの黄汁液を絞り出す様子。右：抜いた綿木を畑で燃やす綿木焚。6号畑。



《草木染めハンカチを販売》－ 2020. 12. 23～、天理駅前コフフンショップにて－

当庵では草木染めを行うたびに、染め上がったハンカチ等の木綿布をデータとともに資料として保存しています。綿の加工工程の一環である、昔ながらの染色について説明する際の貴重な資料でもあるからです。ただ、手にされた方々から「販売して欲しい」というリクエストも多く、これまでは品質を保証できない等の理由でお断りしてきましたが、このたび農業研修で学んだSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)の考え方を踏まえ、「山の辺の彩り」「自然の恵み」をコンセプトに、販売を開始させていただくことにしました。

「当庵では、化学薬品の使用をできるだけ控え、木綿布の染色には欠かすことのできない下地処理(濃染処理)にはおもに豆乳を用い、色素の定着や発色を促す媒染の工程も、草木を燃やした灰から作る灰汁(あく)や焼きミョウバンなどを主として用いています。自然由来の草木染めでは日光による褪色あるいは変色、アイロンがけや時間の経過に伴う色の変化などが生じやすく、洗濯の繰り返しによる色落ちも起こり得ます。また、同じ染色材料を用いて染めた場合でも、媒染材その他の諸条件によって色調はその時々によって異なります。草木染めでは同じ色を二度と出すことはできないと言われる所以です。

コンセプトは「山の辺の彩り」「自然の恵み」です。上記の点をご理解賜り、淡い色調や染めムラ等もふくめてすべてを自然の恵み、景色としてお楽しみいただけましたら幸いです。」(コフフンショップ店内のPOP/ポップより)

コフフンショップとは、JR/近鉄天理駅の改札口横にある天理市観光物産センターです。営業時間は原則として9:00～19:00。年末年始(12/29～1/3)と月に1度の不定休あり。お近くにお越しの際はぜひ一度お立ち寄りください。なお、売り場にあるハンカチは、季節毎に入れ替わる可能性があります。今シーズンはカルカヤ(苧萱)、ギンバイカ(銀梅花)、カリン(花梨)、ベニバナ(紅花・黄汁染)の4種類です。

【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

・糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿:平成30年,2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)

11月24日～12月23日(作業実日数13日) 糸の総量47.0g(12.5匁) 総時間213分(3時間33分)

※1分間≒0.221g 1時間≒13.3g(3.5匁)

【研修等の記録】

- ・令和2年11月28日 奈良県立民俗博物館(大和郡山市)にて、澤田絹子、横山浩子両氏よりお話を伺う。
- ・令和2年12月01日「NAFIC」短期農業研修:自由参加。奈良県果樹振興センター(五條市)にて果樹剪定。
- ・令和2年12月05日 短期農業研修の修了を記念し、まほろばキッチン(農産物直売所)に馬鈴薯を初出荷。
- ・令和2年12月08日「NAFIC」短期農業研修:片付け。ハウスを解体し栽培野菜をすべて収穫、圃場撤収。
- ・令和2年12月12日「日本農業技術検定」(日本農業技術検定協会)3級を受験。NAFIC(桜井市)にて。
- ・令和2年12月13日「相楽木綿伝承館:機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて、次作品設計相談。
- ・令和2年12月18日「相楽木綿伝承館:機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて、整経。
- ・令和2年12月22日 天理大学附属天理参考館にて、「大和機」の熟覧、調査を行う。